

# 乗雲

寺報

第104号

H31.3.1 発行

編集人

〒959-2646 新潟県  
胎内市西栄町 2-8  
TEL0254-43-2419  
FAX0254-43-4560  
広厳寺  
住職 神田英俊

メール

otera@kogonji.jp

道元禪師御一代記押絵 4

入宋求道の旅



道元さまは建仁寺で明全和尚について禅の修行に励まれておりましたが、疑問が解決せず、直接禅の神髄を見極めようと師匠の明全和尚とともに宋の国へ渡ることになる。貞応二年二月二十一日(明全和尚四十四歳、道元さま二十四歳)京都を出発すると、四月はじめには浙江省慶元府という地に無事到着された。

発菩提心 ぼつぱだいしん

道元禪師の著書「正法眼蔵」の中から語句を選び明治時代につくられた曹洞宗の根本聖典「修証義」第四章に、「菩提心を発(おこす)というは、これ未だ度(わた)らざる前(まぎ)に一切衆生を度(わた)さんと発願し営むなり一中路一早く自未得度先度(た)の心を発す お(お)こす(べし)とあります。意味は、「仏道を究めんとするものは、自分が仏に成る(幸せを得る)前にすべての人々が幸せになることを願って行動することが大事である。まずは自分よりも先に、他の人を救うことを思い実践することが仏を信じるもの生き方である。これが 目未得度先度(た)の心」発菩提心」であるとお示しです。

では、どのような行いが他を幸せにすることができるのかといえば、同じ修証義第四章に、「衆

生を利益するといふは四枚の般若あり、一つには布施、一つには愛語、二つには利行、四つには同事(これすなはち菩薩の行願なり)とあります。布施とは、施しを与えること、愛語は、慈愛に充ちた優しい言葉をかける、利行とは、他のためになることをする、同事は、心を合わせ協力を惜しまない。どれもみな他のためになる行いでこの四つを「四摂法」と呼んでいます。

梅花流詠讃歌の「修証義御和讃」には、我は仏にならずとも生きとし生けるものみなを、もろさず救いたすけん、誓つころぞ仏なると詠っています。みずから仏にならずとも、まずは世のため人のため、生きとし生けるものすべてものを救うという誓願をおこしてこれを実践することです。これを「菩薩(正しい生き方を求める者)の行願」と言います。お彼岸にはご先祖様に感謝の誠を捧げると共に、「布施 愛語 利行 同事」の教えを実行し、心豊かに暮らしてまいります。

## 平成三十一年度年回表

「回忌」	「没年」
一周忌	平成三十年
三回忌	平成二十九年
七回忌	平成二十五年
十三回忌	平成十九年
十七回忌	平成十五年
二十三回忌	平成九年
二十七回忌	平成五年
三十三回忌	昭和六十二年
五十回忌	昭和四十五年
百回忌	大正九年

▼平成三十一年度の年回表です。当寺では個人情報保護の観点から本堂には張り出ししていません。正当各家には昨年暮れに通知してありますのでご確認ください。  
▼日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお問い合わせいたします。  
▼「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちようど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考えて、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は九六年目が七回忌、九十二年目が十三回忌となる。